

平成30年度 北海道根室高等学校 学校評価のまとめ

	本校の経営方針及び指導上の重点事項	自 己 評 価			学校関係者評価	
		主な成果と課題	H30	H29		改善の方策
学校経営	<p>(1) 本校が目指す姿を明確にし、校内組織の活性化及び教職員の学校経営参画意識の高揚を図り、協働体制の確立に努める。</p> <p>(2) 生徒一人一人の個性や能力を伸長させ、進路希望を実現する教育課程の編成・実施及び21世紀型能力を育成する授業の改善に努める。</p> <p>(3) 教職員と生徒、保護者の信頼を基盤に活力あふれる教育活動を展開し、地域の期待に応える魅力ある学校づくりに努める。</p>	<p>○学校経営シラバス等により、学校経営方針や目指す学校像を示すことで、教職員の共通理解を図り、協働体制の確立及び促進に努めた。</p> <p>○各分掌・年次学年・教科等において、教育活動の改善に向けた具体的な取組の検討を行った。</p> <p>○Webページの迅速な更新や各種通信の発行、授業公開の実施、オープンスクールや中学校訪問、出前授業等の実施をとおして、学校情報の積極的な公開に努めた。</p> <p>○地域の関係機関と連携した防災安全教育の実施や地域清掃、1年次によるねんりんピック等の地域行事への参加等、地域と連携した活動に取り組んだ。</p> <p>■新学習指導要領の実施や高大接続等、国の動向を踏まえ、学校経営方針や目指す学校像に対する共通理解・共有化をより一層図る必要がある。</p> <p>■地域に根ざした教育活動の充実と教育課程の編成・実施や、教育活動の状況について適切に評価・検証し、継続的に改善に努める必要がある。</p> <p>■効果的な情報発信に努め、地域との連携による学習活動を工夫する必要がある。</p>	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の動向や教育課題を踏まえた計画的・系統的な研修の充実による教職員の共通理解の促進。</li> <li>学校課題に対応した分掌の再編等、組織力の向上、協働体制の確立、業務の平準化に向けた、働き方改革の実現。</li> <li>教員主導から保護者主導へのPTA活動への転換及び参加しやすいPTA活動の企画運営。</li> <li>地域や関係機関と連携した教育活動の充実。</li> <li>情報発信の一層の促進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自治体から様々な支援を受けている高校もある。根室市も高校が1校になるので、生徒と保護者及び学校への支援を要望していく必要がある。</li> <li>生徒と向き合える時間や環境を整えていくためにも、教員の働き方改革を進める必要がある。</li> <li>保護者が学校のことがわからないのも、保護者から様々な批判的な意見が出てくるのも特別なことではない。悪い噂も保護者間ではすぐに広まる。保護者とのコミュニケーションが大切になる。</li> <li>積み重ねが必要なものと短期的に取り組むべき課題を精査し、コミュニケーションを図りながら、粘り強く課題を解決していくて欲しい。</li> </ul>
学習指導	<p>(1) 授業における指導体制を確立し、自ら学習する態度を育成する。</p> <p>(2) 個に応じた指導の充実を図り、基礎的・基本的な知識技能及びそれらを活用して課題を解決する能力を育成する。</p> <p>(3) 指導と評価の一体化を図り、教科・科目の目標の達成に向けた授業改善に努める。</p>	<p>○若く経験の浅い教職員が多く、学習指導の面では改善する余地が多々あるが、生徒の活動を重視した授業改善に各教科で積極的に取り組んでいる。</p> <p>○単制の趣旨を生かし、学校設定科目を多く設置し、少人数指導や習熟度別授業等を実施することにより、個に応じた適切な指導に努め、学力の定着を図っている。</p> <p>○学校課題検討委員会を設け、教育課程の再編成や特設クラスの在り方、総合的な探究の時間の取組等について検討し、教育活動の改善を進めている。</p> <p>○1年次において、家庭学習を定着させるために「家活」指導に取り組む、一定の成果が出てきている。</p> <p>■新学習指導要領に則り、単制の趣旨を生かした教育課程の再編成に取り組む必要がある。</p> <p>■授業規律の改善や定着、学習指導の充実、学習環境の整備に取り組むとともに、自主的・自発的な学習態度の育成に向けた指導の充実を図る必要がある。</p> <p>■学習指導と学習評価の一体化を図ることで、学習内容の定着に及ぼす効果について検証し、さらなる授業改善につながるように、各教科において指導体制を充実させる必要がある。</p>	2.8	3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の適切な管理と恒常的な検証及び全校的な研修の充実。</li> <li>定期的な担任会や教科担任会議での、教科指導に関する課題の共有化。</li> <li>授業規律に関する指導の共通理解と共通実践の確認。</li> <li>週末課題等、家庭学習を促す組織的な取組の実施。</li> <li>基礎学力の定着と学力向上、個に応じた指導の充実を図ることを目的とした、授業時間の増加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受検者が少ない学科があるが、クラス経営や学校行事が成立するように対応すべきである。</li> <li>市内の中学校間で学力差があり、生徒指導上の問題も抱えている生徒もいるようであるが、適切な指導を望む。</li> </ul>
生徒指導	<p>(1) 家庭・地域との連携を密にし、基本的な生活習慣の(挨拶・身嗜み等)の確立を図るとともに、自己指導力の育成に努める。</p> <p>(2) 教育相談の充実を図り、生徒理解に努めるとともに、問題行動の早期発見・早期対応に努める。</p> <p>(3) 自主的・自発的な活動の充実を図り、集団への帰属意識を高め、自ら考え行動できる力を育成する。</p>	<p>○多くの生徒は、HR等での日常的な指導や家庭での指導のもと、基本的な生活習慣の育成が図られ、落ち着いた学校生活を送っている。</p> <p>○生徒指導に関する日常的な注意喚起のほか、生活全般に係る保護者宛文書を配布するなど、事故の未然防止に努めた。</p> <p>○サポート委員会からの情報発信を通じて、不登校等により教育的配慮が必要な生徒の情報共有を図り、適切な指導に努めた。</p> <p>○「いじめ」に関する調査及びネットパトロールの定期的な実施、日常的な観察や声掛け等、「いじめ」「ネットトラブル」等の未然防止に努めた。</p> <p>○生徒が行事で生き生きと活動できる環境を整え、生徒会行事を通じて、自主的に行事に参加しようとする態度を育むことができた。</p> <p>■規範意識の低さや、ルールやマナーを守る意識の低下が顕著に見られる生徒に対して、家庭との連携を強化し、基本的な生活習慣や規範意識の育成に向けた指導の充実を図る必要がある。</p> <p>■「いじめ」「SNSの適切な利用」等、事故の未然防止に向けて、より一層の指導の充実を図る必要がある。</p> <p>■特別な支援を必要とする生徒や教育的配慮を必要とする生徒が増えてきている現状を踏まえ、多様な生徒に対応できる指導体制を構築していく必要がある。</p>	2.7	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒及び保護者理解に努め、学校と家庭の共通理解のもと、基本的な生活習慣・規範意識・ルール・モラルの定着に向けた粘り強い指導の実施。</li> <li>スクールカウンセラーの活用や外部機関との連携及び教育相談体制の整備と充実。</li> <li>多様な生徒に対する接し方等に関する研修の実施。</li> <li>生徒会活動や部活動等を通じた、自主的・自発的な行動につながる諸活動の企画運営。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育活動や取組をしっかり伝えるとともに、学校と保護者と地域の役割を明白にしていくことが必要である。</li> </ul>
進路指導	<p>(1) キャリア教育を基盤とした組織的な進路指導の充実を図る。</p> <p>(2) 校内及び家庭との連携を密にし、個々の進路目標に応じた適切な支援に努める。</p> <p>(3) 適切で迅速な情報の収集と提供に努め、生徒が自ら考える進路学習の充実を図る。</p>	<p>○望ましい職業観や将来の人生設計を立てられるよう、計画的なキャリア教育の実践に努め、進路指導の充実を図った。</p> <p>○定期的な進路だよりの発行や、学年懇談会及び三者面談等を通じて、生徒や保護者への進路情報の提供に努め、個々の能力や適性に応じた適切な進路指導を行った。</p> <p>○インターンシップや職業講話等の実施等を通じて、望ましい職業観や勤労観の育成に努めた。</p> <p>○勉強会宿や長時間集中型の勉強会の実施等、進学指導の充実に向けた取組が推進されている。</p> <p>■「高校生のための学びの基礎診断」及び「大学入学共通テスト」への対応や調査書の様式変更に対する正確な理解と情報共有を迅速に行う必要がある。</p> <p>■国公立大学・難関私立大学や公務員志望者に対する支援体制の整備と充実をより一層図る必要がある。</p> <p>■「総合的な探究の時間」の計画・調整と、市内インターンシップの受入協力企業の拡充を図る必要がある。</p>	3.0	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通した計画的・継続的なキャリア教育と総合的な探究の時間をリンクした、より段階的で具体的な取組の実践。</li> <li>「進路のしおり」等を活用した進路情報の正確な提供と、各教科における模試結果の分析と活用及び受験指導体制の確立。</li> <li>インターンシップ受入協力企業拡充に伴う、企業訪問の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業科や事務情報科の教育活動や出口(進路先)等に関する、根室高校のビジョンを保護者や地域等に伝えていく必要がある。</li> </ul>
健康・安全指導	<p>(1) 健康・体力の重要性を理解させ、自ら運動に親しみ、積極的に体力を高める態度を育成する。</p> <p>(2) 教科や特別活動など学校の教育活動全体を通じて、自らの健康を適切に管理し、増進する実践力を育成する。</p> <p>(3) 安全・防災教育の充実を図り、自尊感情や緊急時の対応力を高める。</p>	<p>○新体力テストの実施により、生徒の体力の状況を把握するとともに、保健体育の授業や体育大会、運動部活動等を通して、健康や体力の向上を積極的に意識させ、運動に親しむ態度の育成に努めた。</p> <p>○市や警察、消防、保健所等の関係機関と連携・協力し、指導の充実を図った。</p> <p>○防災教育をはじめ、学校の教育活動全体を通じた計画的・系統的な指導によって、自ら健康・安全を守る実践力の育成に成果を上げた。</p> <p>■登下校時における交通マナーの向上等、交通安全指導を一層充実させる必要がある。</p> <p>■運動部活動の加入促進や運動に親しみ体力の向上を図る指導を一層充実させる必要がある。</p>	3.1	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テストの結果を活用した体力向上を図る取組の工夫。</li> <li>危機管理マニュアルや防災計画、学校安全計画の周知徹底。</li> <li>交通安全意識を高める効果的な指導の工夫。</li> <li>生徒・保護者への適切な情報提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入者が減ると、様々な部分で悪影響が出てくる。活動に対するモチベーションも下がり、活発でなくなる。北方領土根室研究会や防災の取組等、特色ある活動を継続し、他の部活動も含めて活性化させて欲しい。</li> </ul>

※自己評価における数値は、各項目を「4・・・十分達成できている。3・・・達成できている。2・・・やや不十分である。1・・・不十分である。」で全教職員が自己評価した平均値